

教育講演

地域医療の現状と未来 ～少子高齢社会への対応～

社会医療法人聖医会 サザン・リージョン病院 院長 牧 角 寛 郎

2018年は、診療報酬・介護報酬の同時改定、第7期医療計画・第7次介護保険事業計画の開始、第3期医療費適正化計画及び第2期データヘルス計画の稼働、国民健康保険の財政運営責任の都道府県への移行など種々の改革がスタートした年であった。

さらに、2025年以降の少子高齢社会に備えるべく各県で地域医療構想が策定され、各地で地域包括ケアシステムの構築に向けて調整会議が始まっている。今回の、第7期医療計画・第7次介護保険事業計画では医療と介護のさらなる連携・統合を求められているが、今回の診療報酬・介護報酬の同時改定でも強く意識させられる改定内容となっている。さらに地域医療構想においては、地域の中での公立・公的病院の役割分担の明確化を求められ「新公立病院改革ガイドライン」「公的医療機関等2025プラン」をもとに協議が始まったが、地域の中核となる公立・公的病院の病床機能転換は地域医療提供体制に大きな影響を及ぼすものと思われる。今後それぞれの地域で少子高齢社会に向けてどのような地域医療提供体制を構築し、どのような形で参加していくかが問われていくと思われる。又、少子高齢社会と言われて久しいが、今後、我々が経験するであろう少子高齢社会は、今までとは全く異なる事を認識しなければならないと思われる。

すなわち、今までの高齢化は明らかに高齢者人口が増加した時代であり、その対策として介護保険制度が創設され、病院の病床が増え、老健・特養といった受け皿作りにまい進した時代であった。

しかし、これからの高齢化では高齢者人口は微増であるが、生産年齢人口が減ってしまうことで高齢者の割合が大きく増えてしまうためにおこってくるものであり、それが少子高齢・人口減社会の真の姿と思われる。その事は、我々医療機関にとって市場の縮小と高齢社会の進展という苦境を意味していくわけであるが、その中で安定した経営をどのように実践していくかが今、問われているのである。

今回の講演では、鹿児島県の現状を示し、さらに鹿児島県の地方の中小病院の悪戦苦闘の姿を示すことで、少子高齢・人口減社会への対応の一助になればと思っている。

特別講演

がんゲノム医療

大阪大学大学院医学系研究科 外科系臨床医学専攻

外科学講座消化器外科学 教授

森 正 樹

これまでの医療は平均的な患者を対象に開発されてきた。一方、近年提唱された Precision Medicine は、National Institutes of Health (NIH) の定義によると、環境、ライフスタイルそして遺伝子に関する個人ごとの違いを考慮した予防や治療法を確立する医療とされる。Precision Medicine を直訳すると「精密医療」や「高精度医療」となるが直感的に理解が難しいため、実際には Precision Medicine という言葉が本邦においても固有名詞になりつつある。

外科領域では例えば、今までのがん治療の多くは、肺癌、乳癌や大腸癌などといった癌種により治療方法が決定されてきた。「がん」は、古くからゲノムの異常が原因とされてきた。その異常となった遺伝子の場所により、ある程度のパターンに分類され、特定の遺伝子異常に対する分子標的治療薬もその中に含まれると考える。言い換えれば、癌種が異なっても、遺伝子異常が共通していれば、共通の治療が有効である可能性がある。ゲノムと遺伝子変異の情報を集積し、解析すれば、このようないわゆるドラッグリポジショニングが可能となる。Precision Medicine はドラッグリポジショニングのみならず癌の創薬においても理論的には最も望ましい手法である一方で、これまで主に費用の問題などから本邦は欧米などから遅れを取ってきた。

本邦においてゲノム医療を実臨床化させるためには、各種課題を国家的取組で打破していく必要がある。そのため、政府関係府省並びに関係機関が連携した、「ゲノム医療実現推進協議会」が平成27年1月に設置された。さらにその中間とりまとめで提示された課題の中でも、ゲノム医療等の質の確保のための「遺伝子関連検査の品質・精度の確保の仕組み」や、ゲノム医療等の実現・発展のための、「ゲノム情報に基づく差別の防止」や「データの管理、二次利用について」等は、特に重点的かつ早急に検討を要する課題と考えられ、ゲノム医療実現推進協議会の下に、「ゲノム情報を用いた医療等の実用化推進タスクフォース」が平成27年11月に設置された。当該タスクフォースでは、ゲノム情報を用いた医療及びビジネスを検討の範囲として設定されており、個人情報保護法におけるゲノム情報の取り扱い、ゲノム医療等の質の確保や、ゲノム医療等の実現・発展のための社会環境整備等について検討が進められている。今回は日本のゲノム医療の現状についてまとめてみる。